

学習課題：「歴史教科書の太字」は、なぜ重要か？

比較

教科書123ページ
副読本16~17ページ

資料1: 交流する学校

全体進行：玉井

資料2: 交流する専門家

あきやま 秋山先生 (北海道教育大学釧路校・准教授)
えぐさ 江草先生 (アイヌ民族文化財団・事業部)
しろいし 城石先生 (釧路市立博物館・学芸員)

資料5: 本州と北海道の時代区分

北海道の文化	オホーツク文化		アイヌ文化										
	続縄文文化		和人の文化										
日本史の一般的な時代区分	古墳		奈良		平安			鎌倉		室町		安土桃山	江戸
西 暦	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀	18世紀

(出典: 公益財団法人アイヌ民族文化財団(2025)『アイヌ民族: 歴史と現在(改訂版)』p.6.)

資料3: 生成AIが提案する「洞爺湖町の重要な歴史」

年	出来事と理由
1917年	洞爺湖温泉が整備され始める →火山がある町のメリットを活かせるようになったから。洞爺湖町を「観光都市」「温泉町」として発展させたから。
2000年	有珠山が噴火する →すぐに避難して人的被害がゼロだったから。洞爺湖町を「防災都市」として発展させたから。
2008年	洞爺湖・有珠山がジオパークに認定される →災害の爪痕や縄文人・アイヌの暮らしの証も残っているから。洞爺湖町を「自然と人間の共生都市」として発展させたから。

資料4: 生成AIが提案する「釧路市の重要な歴史」

年	出来事と理由
1901年	釧路港が整備され始める →当時から石炭輸送の拠点として、物流拠点として重要な場所だったから。釧路市を「港町」として発展させたから。
1949年	北海道教育大学釧路校が設置される →道東の教育拠点になったから。釧路市を「産業都市」としてだけではなく、「教育都市」としても発展させたから。
1987年	釧路湿原がラムサール条約に登録される →日本初だから。国際的にも評価されているから。釧路市を「環境都市」「観光都市」として発展させたから。

生成AIが提案した「重要な歴史」に…

【賛成】

- ・3つとも町を大きく変えるきっかけになったから **推移**
- ・今の町があるのは〇〇のおかげだから **関連**

【反対】

- ・もっと20世紀を代表する重要な出来事があるから **時期**
- ・3つとも光の側面しか注目していないから **比較**

「重要な歴史」は、

いつでも・どこでも同じ？

誰にとっても同じ？

文字でしか残っていない？

まとめ：「重要な歴史」かどうかは、**時期・地域・立場によって変わる。**

具体的には、①当時の人にとって大きな影響だったかどうか、②その後も影響が長く続いた・広がっていったかどうか、③その時代を代表するかどうか、などで決まる。

「歴史教科書の太字」も、これらの理由から重要視されている可能性が高い。

資料1：交流する学校

北海道教育大学釧路校

洞爺湖町立
洞爺中学校

全体進行：玉井

釧路市立
山花小中学校



資料2：交流する専門家



あきやま

秋山先生

(北海道教育大学釧路校・准教授)



えぐさ

江草先生

(アイヌ民族文化財団・事業部)



しろいし

城石先生

(釧路市立博物館・学芸員)

資料3: 生成AIが提案する「洞爺湖町の重要な歴史」

年	出来事と理由
1917年	洞爺湖温泉が整備され始める →火山がある町のメリットを活かせるようになったから。洞爺湖町を「観光都市」「温泉町」として発展させたから。
2000年	有珠山が噴火する →すぐに避難して人的被害がゼロだったから。洞爺湖町を「防災都市」として発展させたから。
2008年	洞爺湖・有珠山がジオパークに認定される →災害の爪痕や縄文人・アイヌの暮らしの証も残っているから。洞爺湖町を「自然と人間の共生都市」として発展させたから。

資料4:生成AIが提案する「釧路市の重要な歴史」

年	出来事と理由
1901年	釧路港が整備され始める →当時から石炭輸送の拠点として、物流拠点として重要な場所だったから。釧路市を「港町」として発展させたから。
1949年	北海道教育大学釧路校が設置される →道東の教育拠点になったから。釧路市を「産業都市」としてだけではなく、「教育都市」としても発展させたから。
1987年	釧路湿原がラムサール条約に登録される →日本初だから。国際的にも評価されているから。釧路市を「環境都市」「観光都市」として発展させたから。

資料5：本州と北海道の時代区分



日本史の一般的な時代区分	古墳		奈良	平安			鎌倉	室町		安土桃山	江戸		
西 暦	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀	18世紀

(出典：公益財団法人アイヌ民族文化財団(2025)『アイヌ民族：歴史と現在(改訂版)』p.6.)